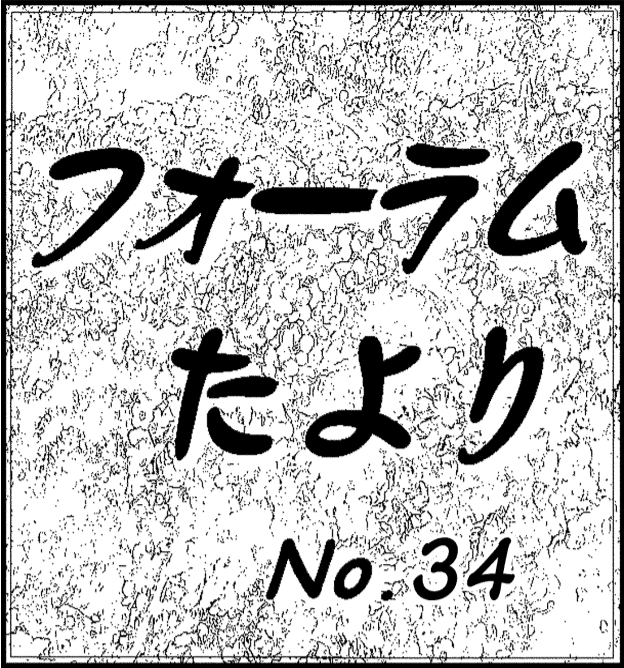


# 立教150年 生神金光大神大祭団体参拝



発行者 金光教首都圏フォーラム  
議長 藤原 務正  
発行日 2010年1月1日  
<http://shutoken.konko.jp/>

## 首都圏フォーラムとは

首都圏（関東教区全域）における各教会連合会が、情報の交換をするばかりでなく、進展する現代社会の状況に対応して、その担うべき役割を開発し、これからめいめいのところで何をして行けばよいか、各教会連合会の連携、連動は可能か、共通の問題は何かということなど、建設的に協議していく場である。

## 初の「のぞみ号」貸しきり団参

10月3日午前10時13分、団体臨時列車のぞみ号が東京駅を出発、品川、新横浜の各駅に停車し、首都圏内51教会から総勢千名が乗車して一路岡山駅に。新横浜駅出発後、間もなくして全員で御祈念を頂き、首都圏団体参拝委員長藤原務正先生から御挨拶があり、改めて立教150年という意義ある記念の年に御本部に参拝ができる喜び、このお道を信心している首都圏信奉者が一体となって、共に参拝させて頂ける有り難さを実感しました。車中では、壮年教師によるアトラクションや記念品の販売があり、各所で教会の枠を超えた交流がなされ、和やかな雰囲気での新幹線の旅でした。

新横浜駅では、団体旅客乗車票では改札を通過できないとの事態となつて、新横浜駅から乗車された皆様にはご不便をお掛けし、中には入場券を購入して新幹線改札に入る方もおられる等、大変ご迷惑をお掛けしました。深くお詫び致します。そして、のぞみ号は定刻岡山駅に

## 「団参奮闘記」

—首都圏千名の祈りを結集して—  
首都圏参拝団团长 木本紀義

平成21年10月3日、新幹線「のぞみ」300系、団体専用列車は午前10時13分、定刻に東京駅を出発した。途中、品川、新横浜に停車し、首都圏51教会から総勢1100名の参加者が乗車。喜びと御礼に満たされた首都圏の参拝団は、一路、御霊地金光へ向かった。列車が動き出すや、胸に熱くこみ上げてくるものがあった。

到着、山陽線定期列車三本と団体臨時列車に分乗して、金光駅に向け出発しました。今回、団体専用車輦が6輦と短いことから、前後三便の定期列車には一輦から三輦を増結、各班無事金光駅に到着し、各自御本部に向かいました。その後、教主金光様お退けお見送り後、会堂正面下で御礼の真を込めて、首都圏参拝団勢祈念を行いました。

翌4日は、午前9時半からの御本部立教150年生神金光大神大祭を頂き、3本の山陽線、新幹線ひかり号にそれぞれ乗車して、新横浜、品川、東京駅に無事到着し解散しました。

また観光組30名は、別府温泉に宿泊、翌5日には湯布院や別府を観光して、各自お土産を手に大分空港から羽田空港に到着、楽しい九州旅行でありました。



青年教師による記念品販売 提供 金光新聞

課題が浮上した。一つには、昨今の団参離れの傾向を如何に克服していくか。二つめには輸送を取り巻く内外の現況である。そのいずれもが、かつて「新幹線臨」(貸し切り臨時新幹線の運行)を計画した時とは大きく様変わりしていた。まさに多難な出発といわざるを得なかった。

平成19年春の団体参拝の折、各先生方に務めてお声をかけ、その感触を求めた。一様に「それは無理だろう!」と、冷めたものであったが、逆に燃え上がるような思いが心を駆り立てた。そうした周囲の状況であったが、団参委員一同の切なる願いとして、正式にフォーラム議長を通して実施すべきか否かの判断を仰いだ。数回のアンケート調査を重ね、概ね900名に及ぶ集計結果を得たことにより、募集人員を1100名(責任人員1010名)と設定し、実施に向けての取り運びを進めることとなった。

団参を計画する上で常に心掛けていることは、参加者にとって「安全・快適・格安」な参拝を提供するということである。しかし、近年JRにあっては、ひかり号が1時間に1本体制となったことにより、ひかり号での運行は不可能となり、割高なのぞみ号利用を余儀なくされた。岡山、金光間の在来線も、客車不足の関係で定期列車を含め数本の便に分乗せざるを得なくなった。心掛けていた課題に対するマイナス要素が予想以上に次々と重なった。JR及びJTBに対する折衝の度も熱を帯び過激さを増した。

お年柄を迎えた7月、各教会に申込み人員の報告を求めた。返信はがきによる集計結果は560名、募集人員のわずか半数程度であった。焦りの気持ち心が覆った。

参拝当日まであと2ヵ月半。すでに取り消し不可能な時期にあって、

焦燥感と「無謀な計画であったのか」と、責任が身に重くのしかかった。責任人員に満たない場合は不足人数分の運賃及び急行料を弁償しなくてはならず、あれやこれや方途の模索に明け暮れた。眠れぬ日が続く中、打ち立てた願いが切なる祈りとなっていた。

申込金受入当日、結果的には900名を超える申込人員を得、実施への具体性が鮮明となった。それから1ヶ月。本払い当日には宿願の1000名を超えた。厚氷が溶けるが如き安堵の心地に、一同拍手して喜んだ。

併せて計画実施した観光コースは、参加者30名と小規模な結果となった。「観光コースへの参加を今回はあきらめて、その経費でもう一人お誘いしよう」と、参加を取りやめた教会もあった。その取り組みに頭が下がった。

また、先生方、輸送ご担当の信徒の方々から、激励の電話やメール、お礼のファックスを何通も頂いた。今までになかったことであり、結果の見えない状況下において大きな支えとなった。

立教150年の意義深きお年柄に、首都圏団参、なかならず教区輸送史上に残る記念の団体参拝を、首都圏1100の祈りと取り組みの結果により、願いのままに実施させて頂くことが出来た。当日の参加者数は、当初設定した募集人員1100名と寸分の狂いも無く、全くの同数であった。結果された祈りの大きさと、神様のお働きの奇しきは真に恐れ多く、肅然襟を正しめられる結果となつて結実した。

共々に、おかげを蒙らせて頂けましたことは大きな喜びであり、厚く御礼を申し上げます。

(首都圏参拝団副团长 南 清孝)

# 「初の九州ツアー」

「これほどの晴天があるだろうか」そんなことばを交わしながら降り立った金光。山の稜線はくっきり。目にしみる青い空。その好天は立教百五十年生神金光大神大祭当日もそのままだった。

満員の祭場から雑踏をかき分け、正午には金光駅に観光組が集結。新型インフルエンザの影響懸念を吹き飛ばし、未信奉者を含む一行三十名一人も欠けることなく、福山から新幹線のぞみ号で小倉へ。そして貸切バスで一路別府温泉へと向かった。道中の山や海の美しいこと。地名を見るつど、ああ、あの教会はこういう所にあるのか、と思いを馳せつつ通過。

その日の宿は「清風」。旅装を解いて屋上の露天風呂に入ると眼前には別府湾が広がる。やがて満月が水平線の彼方から昇ってきた。次第に闇



笑顔笑顔の別府温泉地獄めぐり

ある。自分で勝手に料金を払って入る混浴露天風呂も洒落ていて、魅惑的だった。各自の楽しみの時間を満喫したあと、バスで別府温泉に引き返した。国の重要無形民俗文化財に指定されている、「薬用湯の花」を製造する明ばん温泉の見学と昼食。さらに血の池地獄、海地獄を堪能し、海産物のお土産屋さんに寄って大分空港へ。お互いにこの三日間の充実の時を共有した仲間との別れを惜しみつつ、羽田で三々五々散っていった。

迫る空に月が冴えわたる。

大広間で夜の宴が始まった。まずは藤原正団委員長、木本紀義団長のご挨拶。首都圏団参が初めて九州にまで足を伸ばしたこと、ご大祭のご比礼を頂いて喜び合いたいこと、お互いの連帯を深めお道を伝えていこう、などが述べられた。そしてホテル提供のマジックショーを皮切りに、参加者が次々と歌や踊りを繰り出す。最後は「金光サンパ」で大パーティーとなった。

直会宴のあとは、それぞれの部屋で別府の夜を満喫。あるグループは飲み部屋を集結してお互いに名乗り合い、教会を越えて交流を深めた。翌日はバスで湯布院温泉に。いかにも観光の町という風情で、どの店も洒落ている。由布岳に迎えられ町に到着するとまずは金鱗湖に案内された。朝霧の中の光景は幻想的な町だ。

たっぷりの自由時間で、散策を楽しんだ。シャガールの美術館もあれば、古伊万里の展示場もある。自分で勝手に料金を払って入る混浴露天風呂も洒落ていて、魅惑的だった。

# 「感動の車内スピーチ」

前橋教会 阿部龍彦さん



皆様おはようございます、そして、おめでとうございます。

本日、立教150年生神金光大神大祭に皆様と共に参拝させて頂ける事をたいへん有り難く思います。

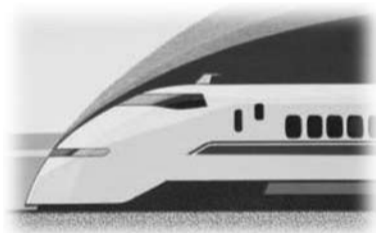
今から21年前、昭和63年6月に新幹線全車両を借り切った首都圏布教100年の記念団体参拝が行われましたが、残念ながら私はその頃単身赴任中でして、参加できなかった事を覚えています。

今回こうして、金光教立教百五十年記念生神金光大神大祭に首都圏で臨時新幹線「のぞみ号」を借り切り、約1000人を超える信奉者による団体参拝に、皆様と一緒に、夫婦で参拝で

きるお陰を頂きました。

また、私も夫婦にとつては、この度立教150年の御比礼を頂き、10年目にして長男夫婦に子どもができて、初孫誕生のおかげを頂きました。この喜びを、是非団体参拝に参加させて頂き、二重のお礼を申さねばいられない気持ちで参拝させて頂きます。

明日はお天気のお練り合わせを頂き、全員無事参拝させて頂けますことを祈念すると共に、新たに信心の出発日にさせて頂きたいと思っております。皆様、どうぞ宜しくお願いいたします。



芝教会 岸由佳子さん



毎年父と共に、時には両親と三人で皆さんと一緒に参拝して参りました。この度は立教150年の御年柄、加えて私にとっては芝教会布教120年の記念の御年柄でもありますので、この一年の御礼だけではなく、私にこに至るまで頂いてきた数限りないおかげに対しての、御礼参拝をさせて頂ければと思っています。

私のひいおじいさんは、芝教会の初代教会長、大場吉太郎先生のお取次によって助けて頂き、教師としてお取り立て頂いた程信心の篤い人でした。その孫である父は、小さいときに両親を亡くし、伯父夫妻の所へ預けられました。そして19才の時、当時死の病といわれた結核にかかり、助かりたいという一心から伯父が信仰していたある宗教に入ります。しかし、両親のお墓の祀り方についてその宗教に不信を

抱き、思い悩んで金光教芝教会に相談に行き、明るく大らかな雰囲気の中で祈りをこめて導いてくださった大場正範先生に、信頼の心を寄せました。

その後霊感の強い方に相談すると、ご先祖様の声色が変わって「何を悩んでおる。道は一つじゃ」と言われたそうです。色々な宗教に振り回されていた父に、ひいおじいさんが「道は金光教一つ」と言いたかったのでしよう。その後両親のお墓も納得のいくように整備し、大場先生にお祈りして頂き落ち着きました。

それ以来金光教一筋、大きな病気も何度も乗り越えて、安心のおかげを頂いてきております。一方、私の母方のひいおじいさんも、奈良県のお教会で現在の輔教の様な御用をさせて頂いていましたが、息子であるおじいさんは身内の不幸が重なり、教会から離れてしまいました。しかしその娘である私の母と父が、「神縁まことに不思議にして」とのお言葉通り、不思議な出会いを頂き結婚して、おじいさんも最後は大場先生にご葬儀をして頂き、金光教で祀って頂いています。

壮年教師会会長 鈴木一嘉

そしてその父と母の間に生まれた私が、このお道のご信心で何がおきても前向きに受けとめられる安心の境地に身をおけるおかげを頂いています。このことを改めて思ったとき、信仰から離れたたり回りを道にしても金光様は決して見放すことなく、何世代にも亘り守り導いてくださっていたことがわかります。

立教150年の流れの中で頂いたご神縁を振り返り、深く感謝してご本部参拝させて頂きたいと思っております。

(一部要旨)

# 盛りだくさんの車内イベント

「新幹線丸々1本を借り切ったの首都圏団体参拝で、車内でメモリアルな催しを行って欲しい」とのフォーラム議長の言葉を受けて、壮年教師会が取り組みを始めたのは、6月の首都圏御礼祈願祭が終わってすぐでした。

そこで我々が思いついたのが、記念品販売と車内イベントでした。記念品は企画の時期が夏だったこともあり、扇子と手ぬぐいという純日本のグッズが採用になりました。

立教150年そして首都圏参という意味合いからも、扇子には立教神伝を載せ、手ぬぐいにはご霊地の切り絵を4カット描いたものと、東光園碑に記されている東京布教の碑文の2タイプを用意しました。問題は何個作成するかです。

当初「壮教」では、扇子が100、手ぬぐいを250枚づつというくらいが無難な数ではないかと考えていたのですが、夏の連合会行事などで宣伝したところ、意外にも好評で、議長とも相談し、扇子を300、手ぬぐいも1300に増量しました。おかげ様で扇子の方は即完売、手ぬぐいもほぼ完売のおかげを頂きました。

車内をかけまわり、頒布をしてくださったのは、青年教師の方々を中心となりました。それぞれ在籍教会でのお世話もあつたかに思いますが、献身的な御用の姿には胸が熱くなりました。

もう一つの車内イベントは「静岡・名古屋・京都・新神戸」の各駅を通過した時に、その土地の名産品をプレゼントする抽選会を企画しました。

静岡は「お茶」名古屋は「味噌」京都は「西陣織」そして神戸は「神戸牛のカレー」を事前に買い揃え、車内放送にて引き当てた号車、列番、座席を伝えました。更に、「喜びのおすそ分け」として、当選者の前後の席の人にも、21年前の首都圏布教100年団体参拝の記念品の「八つ波のマークをつけた新幹線を写したオレンジカード」をプレゼントしました。

この抽選会も好評で、当選者には「喜びの声」を語って頂きましたが、こちらがお願いした「一言」を超えて当選の喜びと本部参拝の喜びを語って頂きました。

今後も首都圏貸し切り団体参拝をと願う人は、私だけではないと思います。